

大学研究室紹介

リレ一随筆

キャンパスだより(18)

静岡大学農学部
応用昆虫学研究室さいとう つひ
西 東 力

所在地：静岡市駿河区大谷 836

Laboratory of Applied Entomology, Faculty of Agriculture,
Shizuoka University. By Tsutomu Saro(キーワード：応用昆虫学, 施設害虫, 生物的防除, 天敵昆虫,
天敵微生物, 細胞内共生微生物, 芝草害虫)

農学部棟。周囲に畑と温室が散在します。農場は少し離れた藤枝市にあります

はじめに

静岡大学は、1949年(昭和24年)、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校との5校が統合されて発足しました。農学部は、その翌々年、静岡県立静岡農科大学が母体となって設置されました。

現在の農学部は、静岡市街からほどない日本平の西面に位置します。背中合わせの東面には徳川家康ゆかりの久能山東照宮が鎮座しています。眼下に市街地が広がり、左手に駿河湾を望み、右手に富士山を仰ぎみることができます。自然と歴史に囲まれた穏やかなキャンパスです。

応用昆虫学研究室は、1975年(昭和48年)、吉田正義(～1981年)のもとでスタートしました。歴代には、西垣定次郎(1969～1999年)、廿日出正美(1975～2006年)、廣森 創(1999～2006年)の諸先生がおり、芝草害虫の分野で数多くの業績をあげてこられました。現在の布陣は西東 力(2005年～)と田上陽介(2007年～)の2名で、いずれも新米教員です。研究テーマも施設害虫の生物的防除や遺伝子レベルの研究に様変わりしつつあります。

I 研究室の学生

応用昆虫学研究室は、生産と環境の調和を目指す共生バイオサイエンス学科に属します。本学科の学生は3年生後期になると各研究室に分属し、4年生になるまでの半年間をかけて、卒業研究に必要な基本的なテクニックを学ぶとともに、研究室生活に馴染んでもらいます。

本研究室の学生数は、2005年度12名(博士課程1、

修士課程1、学部10)、2006年度13名(修士課程4、学部9)、2007年度16名(修士課程5、学部11)と、年々、増加しています。博士課程については、岐阜大学と信州大学とともに連合大学院を形成しています。残念ながら、ここ2年間、研究室の博士課程は不在です。

農学部の学生の男女比は半々で、応用昆虫学研究室の男女比もほぼ半々です(図-1)。研究室に入ってくる学生の中には、昆虫飼育や植物栽培の経験が乏しいものもいて、卒業研究のスタートラインに立つまでが一苦勞です。天敵昆虫を研究テーマに選んだ学生はなおさらです。天敵を飼育する場合、その前に天敵の餌となる昆虫を飼育しなくてはならず、この昆虫を飼育するためには植物を栽培しなくてはなりません。こうした3段階の作業が必要になりますが、どこかでつまずくと、天敵までたどりつけなくなります。昆虫や植物に馴染みの薄かった学生にとって、一連の作業は困難を極めることとなりますが、しばらくするとどの学



図-1 応用昆虫学研究室のメンバー。夕方、全員そろった頃にティータイムをとります。おおらかさでは農学部随一かもしれません